

〔皇大神宮儀式帳〕二荒祭宮正殿裝束 合廿種

神財八種略○中 吳床一具漆塗長二尺三寸

〔延喜式五齋宮〕造備雜物略○中

胡床二脚

〔源氏物語二十四胡蝶〕わざとひらばりなどもうつさんず、おまへにわたれるらうをかくやのさまにして、かりにあぐらどもをめしたり、

〔源氏物語湖月抄二十四胡蝶〕あぐら細花説可なり、花 胡床を日本紀にあぐらとよめり、樂人の座也、

弄 胡床などにこしをかけたるなるべし、

〔西宮記 五月〕觀射事 附競馬

康保二年六月七日、於弘徽殿有競馬事略○中 左右算刺著飛香舍東北中門内座胡床、以殿上小舍人胡床爲座

〔内宮長曆送官符〕太政官符

伊勢大神宮司略○中

神財漆種略○中 吳床壹具、塗黑漆平文長二尺三寸、在金銅桶尻緋緒○中

伊佐奈岐伊佐奈彌宮二所略○中

神財略○中 吳床一具、塗黑漆平文、以緋網著總金銅桶

〔榮花物語三十六根合〕四月二〇寛徳八日には御即位あり、冷泉のこる人なく見る、もんいる程たまのかうぶりして、あぐらどものうへにゐなみたる、からゑのこ、ちして、女房などは吉につきてさぶ

らふ、

〔江家次第十九〕石清水御幸儀 寛治四年

次入御於神宮南廊門以西御所、公卿著同廊門以東座、諸衛著門外胡床、